この先生にズームイン

ZOOM IN

今も〝あまロス〟?

昨年大ヒットした「あまちゃん」は、脚本家の宮藤官九郎と同い年ということもあって「世界観がドンピシャでした」。放送終了後の〝あまロス〟状態を慰めるかのように、ブルーレイボックスやCDのほか、主演の能年玲奈が掲載されている雑誌を片っ端から買いあさった。「あまちゃんは画面の構図や小道具の使い方など、学生たちの教材に使えそうな要素が盛りだくさん。ただのファンではなく、授業のこともちゃんと考えています」と胸を張る。

ジブリは要チェック

カット割りの勉強のために集めているジブリ作品の絵コンテ集。自身が考えるジブリ作品のナンバーワンは昭和54(1979)年公開の「ルパン三世 カリオストロの城」。授業でもしばしばその素晴らしさを説くが、最近の学生には通じにくいらしく、世代の壁を感じているという。

靴が苦手

足幅が広いため、靴を履くのは学会など年に数回だとか。逆に「楽でいい」と、年中履いているのがクロックスのサンダル。ちょっと黒ずんでいるが、「遠目から見れば靴に見えなくもないでしょ?」とあまり気にしていない様子。

学生からのプレゼント

小学生のころからガンダムが大好き。ガンダムの頭部をかたどった車載用ドリンクホルダーは佐賀大学の教え子たちが誕生日にくれたものだが、愛車ゴルフワゴンには合わないため、デスクのお飾りとなっている。「兵教生からはまだプレゼントをもらったことがないですね。アピールが足りないのかな。誕生日は11月14日です!」

授業でドラマ作り

世代が異なる3台のソニー・ハンディカムは、授業でのドラマ作りに使っている。自ら台本を書き、それに沿って学生が演技することで、活字を映像化した時のギャップを学ぶというもの。「学生たちは素直に演じてくれますよ。やらざるを得ない雰囲気を、私が醸し出しているからかもしれませんが。ハハ」

羽田潤(はだじゅん) 准教授

文化表現系教育コース
[言語系教育分野(国語)]

大阪府出身。平成7(1995)年、大阪教育大学を卒業後、演劇関係の仕事を経て、同大学附属平野小学校の非常勤教員に。在職中、同大学のメディア・エデュケーション研究会で、国語科授業におけるメディアの活用法について研究を始める。12(2000)年、同大学大学院に入学。20(2008)年から佐賀大学文化教育学部准教授を務め、昨年から現職。授業は「国語科教育法」(学部)、「国語科カリキュラム研究」(修士課程)を担当。

先生に質問!

Q&A

Q 先生が研究しているメディアを活用した国語科授業とは。

A 小学校の教科書には挿絵や写真、図表など言語外のメディアがふんだんに使われていますが、国語科は文章重視でメディアには触れる機会があまりありません。しかし、メディアを深く読み込むことは、子どもの言葉の力の向上につながります。例えば、一枚の写真を見せ、どのような状況なのかをイメージさせたり、せりふを付けさせたりと、子ども自身の言葉で考えて発表させるのです。現在はどんなメディアが効果的なのかを調べている段階で、その結果を基にいずれは教材やカリキュラム開発に取り組みたいです。

Q 学校現場でそのような授業が行われる見通しは。

A 高校の現代国語の学習指導要領には「文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報の読み取り」が挙げられており、近い将来、中学校や小学校にも盛り込まれると思います。また、電子黒板に代表されるICT機器は映像や写真を使った授業に適しており、活用が進むと考えられます。

Q 学生たちに伝えたいことは。

A 「授業が面白くなければ、子どもたちはつまらない」ということですね。面白い授業をするためには多くの引き出しを持つことが大事。その一つがメディアの活用です。